

小美玉市立竹原小学校いじめ防止基本方針

平成 26 年 1 月 10 日策定

令和 8 年 4 月 8 日改訂

1 いじめの定義といじめに対する本校の基本認識

「いじめ」とは児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。（いじめ防止対策推進法 第2条）

上記の考え方のもと、本校では全ての職員が「いじめは、どの子供、どの学校、どの学級でも起こり得るものであるが、人間として絶対に許されない卑劣な行為である。」と考え、児童が「いじめのない明るく楽しい学校生活」を送ることができるように、「いじめ防止基本方針」を策定した。いじめ防止のための基本姿勢として、以下の5つのポイントをあげる。

- ①いじめを許さない、見過ごさない雰囲気づくりに努める。
- ②児童一人一人の自己有用感を高め、自尊感情を育む教育活動を推進する。
- ③いじめの早期発見のために、様々な手段を講じる。
- ④いじめの早期解決のために、当該児童の安全を保証するとともに、学校内だけでなく各種団体や専門家と協力をして、解決にあたる。
- ⑤学校と家庭が協力をして、事後指導にあたる。

2 いじめの未然防止のための取組

児童一人一人が認められ、お互いに相手を思いやる雰囲気づくりに学校全体で取り組む。また、教師一人一人が分かりやすい授業を心がけ、児童に基礎・基本の定着を図るとともに学習に対する達成感・成就感を育て、自己有用感を味わい自尊感情を育むことができるように努める。

道徳科の時間には命の大切さについての指導を行う。また、「いじめは絶対に許されないことである」という認識を児童がもつように、人権集会等を効果的に行うなど教育活動全体を通して指導する。そして、見て見ぬふりをすることや知らん顔をすることも「傍観者」として、いじめに加担していることに気付かせ、いじめの未然防止に取り組む姿勢を全教職員で共有する。さらに、いじめ未然防止等の職員研修を行い、発達支持的生徒指導及び課題予防的生徒指導に全職員で努める。

- (1) いじめを許さない、見過ごさない雰囲気づくりに努める。
 - ①いじめゼロを目指した児童会活動を推進する。
 - ②人権に関する活動（人権集会）を行う。
 - ③他者との関わりを豊かにし、思いやりや感謝の心情を高めるため、縦割り班活動（キッズグループ）を行う。
 - ④道徳の時間を中心に、心と心の連携を図る。
- (2) 児童一人一人の自己有用感を高め、自尊感情を育む教育活動を推進する。
 - ①一人一人が活動できる学習活動
「健康な心や体づくりなどの基本的な生活習慣の定着は学習を支える生活基盤となるものである。」という立場に立ち、以下の教育活動を推進する。
 - ・縦割り班活動（キッズグループ）の充実
 - ・児童の自発的な活動を支える委員会活動の充実
 - ・児童が主体的に取り組める学習活動や自主学習の工夫

②人との関わり方を身に付けるためのトレーニング活動

学級活動等を活用して、ソーシャルスキルトレーニング等を行い、自分と他人では思いや考えが違うことに気付かせたり、他者から認められる自分の存在を感じさせたりすることで、自尊感情を育み、明るく楽しい学校生活を送ることができるようにする。

③人とつながる喜びを味わう体験活動

友達と分かり合える楽しさやうれしさを実感できる活動の充実と、相互交流を行うことでコミュニケーション能力を育成する。また、学校行事や児童会活動、総合的な学習の時間や生活科における道徳性育成に資する体験活動の推進を行う。

④教育課程全体における情報モラル教育

情報通信ネットワークの利用において、児童が直面する諸問題の未然防止を図る。

3 いじめ防止等に関する措置

(1) 学校内の組織

「いじめ防止・生徒指導対策委員会」

いじめ防止に関する措置を実効的に行うため、月1回を定例会とし、校長、教頭、教務主任、生徒指導主事、学級担任、養護教諭、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、その他の関係者によるいじめ防止のための校内組織として設置する。ただし、小規模校である本校の実態から基本的には全職員で対応する。

○いじめの未然防止に関すること

○いじめの早期発見に関すること

○いじめ事案への早期対応に関すること

- ・いじめであるかどうかの判断・支援、指導等の体制、対応方針決定
- ・いじめの解消の判断

○いじめの再発防止に関すること

(2) 家庭や地域、関係機関と連携した組織

重大事態等、緊急な生徒指導上の問題が発生した場合は、担任は生徒指導主事に連絡をする。その後、「緊急生徒指導対策委員会」を開催し迅速な対応を行う。

校長、教頭、生徒指導主事、教務主任、保健主事、養護教諭、教育相談担当職員、担任、SC、SSW、警察署員、市教育委員会職員、PTA会長、学校運営協議会委員 等

4 早期発見・早期解決への取組

	児童へ直接関わる取組内容	保護者との連携や依頼内容
いじめの早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学校生活アンケート」（6回）を行い、児童の悩みや人間関係を把握 ○ QUテスト（年2回）の結果をもとに学校生活における子供一人一人のつまずき等を事前に把握し、支援を行う。 ○ 教育相談として個別面談を長期休業後に行うとともに、いつでも相談できる教育相談体制を整える。 ○ 「オンライン相談窓口」等により不安や悩みを抱える児童がSOSを出せる環境づくりをする。 ○ 集団から離れて一人でいる児童への声かけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常的・積極的な子供との会話 ○ 服装の汚れや乱れ、怪我のチェック ○ 問題解決に向けた学校の指導方針への理解と協力

いじめの早期対応	暴力を伴ういじめ	いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本人及び周囲からの聞き取りによる身体的・精神的な被害の把握 ○ 被害が継続しない体制づくり（休憩時間・登下校時の見回り） ○ いじめの原因や背景の調査による根本的解決 ○ 関係機関（警察、児童相談所、こども家庭センター、SSW、SC等）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実や心情の把握（子供を守る強い姿勢を見せること・子供の話を聞くこと） ○ 問題解決に向けた学校の指導方針への理解と協力
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実の確認 ○ 「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度でいじめを阻止 ○ いじめの原因や背景の調査による根本的解決 ○ 関係機関（警察、児童相談所、こども家庭センター、SSW、SC等）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめられた児童を守る対応をすることへの理解 ○ 事実の冷静な確認と子供の言い分を聞くこと ○ 被害児童・保護者への適切な対応
暴力を伴わないいじめ		いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本人及び周囲からの聞き取りによる精神的な被害の把握 ○ 被害が継続しない体制づくり（教師による休憩時間・登下校時の見回り） ○ いじめの原因や背景の調査による根本的解決 ○ 関係機関（警察、児童相談所、こども家庭センター、SSW、SC等）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実や心情の把握（子供を守る強い姿勢を見せること、子供の話を聞くこと） ○ 問題解決に向けた学校の指導方針への理解と協力
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実の確認 ○ 「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度でいじめを阻止 ○ いじめの原因や背景の調査による根本的解決 ○ 関係機関（警察、児童相談所、こども家庭センター、SSW、SC等）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめられた児童を守る対応をすることへの理解 ○ 事実の冷静な確認と子供の言い分を聞くこと ○ 被害児童・保護者への適切な対応
行為がわかりにくいいじめ		いじめられた側	<ul style="list-style-type: none"> ○ 苦しい気持ちへの共感と「いじめから全力で守る」ことの約束 ○ 本人及び周囲からの聞き取りによるつらさの的確な把握 ○ いじめの原因や背景の調査による根本的解決 ○ 関係機関（警察、児童相談所、こども家庭センター、SSW、SC等）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実や心情の把握（子供を守る強い姿勢を見せること、子供の話を聞くこと） ○ 問題解決に向けた学校の指導方針への理解と協力
		いじめた側	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事実の確認 ○ 「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度でいじめを阻止 ○ いじめの原因や背景の調査による根本的解決 ○ 関係機関（警察、児童相談所、こども家庭センター、SSW、SC等）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめられた児童を守る対応をすることへの理解 ○ 事実の冷静な確認と子供の言い分を聞くこと
ネット上のいじめへの対応			<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報社会の実態を伝達し、課題の正しい理解と啓発活動を推進する。 ○ 情報モラルに関する指導を行う。 ○ 上記の流れで早期に対応し、加害者（発信者）にデータの削除を求める。 ○ 加害者が特定できない場合、接続プロバイダ等設置者に相談する。 ○ 関係機関（警察、児童相談所、こども家庭センター、SSW、SC等）との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校だよりやホームページでの情報社会の実態を伝達し、課題の正しい理解と啓発活動を推進する。 ○ いじめられた児童を守る対応をすることへの理解 ○ 事実の冷静な確認と子供の言い分を聞くこと

いじめの早期対応	直接関係がない児童	<ul style="list-style-type: none"> ○ 傍観することがいじめに加担することと同じであること、いじめられた児童の苦しみの理解 ○ 言いなりにならず、自分の意志で行動することの大切さの指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いじめに気付いた場合、傍観者とならず学校や保護者に話せるよう指導 ○ どんな場合でもいじめる側や傍観者にならない強い意志の育成
----------	-----------	---	--

5 関係機関との連携

- (1) S C、S S W、教育支援センターと連携・協力して、児童の心のケアや問題の解決にあたる。
- (2) 小美玉市教育委員会、こども家庭センター、警察との連携と、各種相談機関による保護者への啓発活動を推進する。
- (3) 重大ないじめ事案及び犯罪と認められる事案は、小美玉市教育委員会と協議をした上で、警察に通報し、解決に向けての援助を求める。
- (4) 必要に応じて、P T A本部や学校運営協議会、民生委員と連絡・連携し、解決に向けての情報の共有と協力依頼を行う。

6 重大事態への対処

児童がいじめにより、生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認める場合、又は相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認める場合、児童や保護者からいじめられて重大事態に至ったという申立があった場合に次の対処を行う。

- (1) 発生報告
 - 重大事態が発生した際は、市教育委員会を通じて市長に報告する。
- (2) 調査主体の判断
 - 市教育委員会において、調査主体を判断する。
- (3) 実態把握
 - 当該事案に対応する調査を実施し、事実関係を速やかに把握する。
- (4) 被害者保護
 - いじめの被害を受けた児童の生命又は身体の安全を確保するとともに、情報を提供した児童を守るための措置を講ずる。
- (5) 加害者対応
 - いじめの加害児童に対しては、毅然とした対応でいじめをやめさせるとともに、しっかりと寄り添い、いじめを繰り返さないよう指導、支援する。
- (6) 調査結果報告
 - 調査結果については、市教育委員会に報告するとともに、いじめを受けた児童と保護者に対し、事実関係について説明する。
- (7) 市長への報告
 - 上記調査結果については、市教育委員会を通じて、市長に報告する。
- (8) 解消と再発防止
 - いじめの被害を受けた児童に対しては、継続的な心のケア等、落ち着いて学校生活を送ることができるための支援や、適切な学習に関しての支援等を行う。
 - 加害児童に対しては、適切な指導を行うとともに継続的に見守り、再発の防止に努める。
- (9) 同種事態の発生防止
 - 当該事態の事実と真摯に向き合い対応することによって、同種の事態の発生を防止する。

7 取組の評価

いじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、次の4点を学校評価項目に加え、適正に取組を評価する。

- (1) いじめの未然防止に関する取組に関すること
- (2) いじめの早期発見に関する取組に関すること
- (3) いじめへ対応するための取組に関すること
- (4) いじめの再発を防止するための取組に関すること

8 いじめ防止基本方針の見直し

評価結果や取組が計画どおりに進んでいるかどうかの確認や、基本方針等について見直しを行う。また、いじめ問題に係る法規等や、茨城県、小美玉市いじめ防止基本方針を参考に実態に合った基本方針であるか検討し、学校及び家庭、地域が一体となり、いじめ問題対策の総合的な改善を図る。

9 いじめ問題に対する取組に関する年間計画

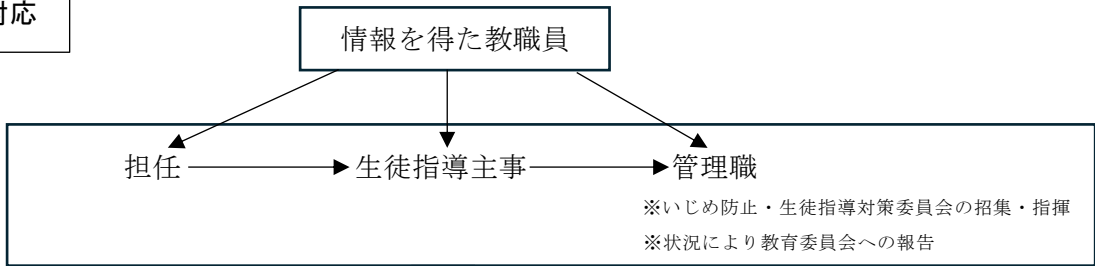
月	内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・危機管理マニュアルの検討 ・相談窓口一覧配布 ・定例会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・学校いじめ防止基本方針の検討 ・個別面談 ・学級目標の作成
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・定例会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・SCによる全員面談①（6年）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・QUテスト ・情報モラル教室（1～2年、4～6年） ・定例会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・人権教室（6年） ・SCによる全員面談②（6年）
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・QUテスト結果分析による個別観察 ・SOSの出し方教室（5年） ・インターネット安全教室（3年） ・定例会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・SCによる全員面談③（6年） ・保護者面談 ・SNS家庭でのルールづくり（4～6年） ・学校評価
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修 ・個別な対応が必要な児童への連絡 <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口一覧配布 ・定例会議の開催
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談 ・人権教室（4年） <ul style="list-style-type: none"> ・SCによる全員面談④（6年） ・定例会議の開催
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・校内研修 ・定例会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・なかよし集会（人権集会） ・SCによる全員面談⑤（6年）
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・QUテスト ・薬物乱用防止教室（6年） <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット安全教室（5年） ・定例会議の開催
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・QUテスト結果分析による個別観察 ・相談窓口一覧配布 <ul style="list-style-type: none"> ・いのちと性の講演会（6年） ・生命（いのち）の安全教室 ・定例会議の開催
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談 ・校内研修 <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価 ・定例会議の開催
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・定例会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品の教室（3年）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケート ・自己評価 ・定例会議の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・相談窓口一覧配布 ・次年度学校いじめ防止基本方針の検討

10 いじめ対応フロー

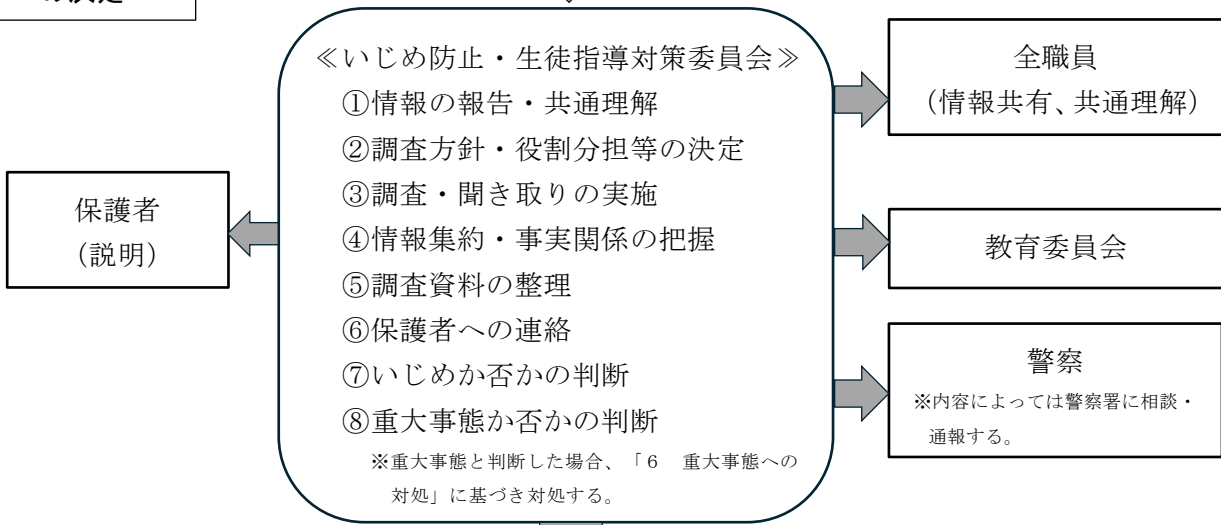
1 発見

《いじめの情報源》
 ○児童・保護者からの訴え
 ○学校生活アンケート
 ○日常の観察
 ○教育相談（含、オンライン相談）
 ○周囲からの情報 など

2 組織対応



3 指導方針の決定



4 組織的な指導・支援

